

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

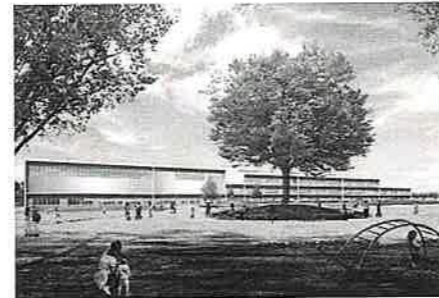
- 1 報告地区：空知地区
- 2 事例報告学校名：砂川市立豊沼小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 神島 亘基
- 4 キーワード：義務教育学校の開校・小中一貫教育の推進

1 はじめに

砂川市内の児童生徒数は年々減少しており、将来にわたり効果的な統一性のある教育活動を維持するために、平成30年度から市立小中学校の適正規模・適正配置の検討を開始している。

令和3年6月には、「砂川市立小中学校統合準備委員会」と「砂川市小中一貫教育推進委員会」が設置され、令和5年4月に砂川中学校と石山中学校の2中学校を統合した。

また、令和8年4月に小学校5校と中学校を統合して、義務教育学校「砂川市立砂川学園」を開校することが決定しており、現在、準備が進められている。



2 小中学校統合準備委員会について

(1) 準備委員会の位置づけ

小中学校長、学校運営協議会の代表者、PTA会長等で構成されており、令和8年度の「砂川学園」開校に向けて、「砂川市立小中学校適正配置基本計画」及び「砂川市義務教育学校基本構想」に沿って、具体的な事項について検討し、教育委員会へ報告（提言）することとしている。

(2) 準備委員会での検討事項について

これまでに、校章のデザイン、制服・ジャージの取扱い業者及びデザイン、スクールバスの運行経路や乗車対象者等について検討を行ってきた。また、校歌の歌詞にしたい言葉やフレーズを児童生徒や一般から広く募集し、現在、砂川市出身の作詞・作曲家Tomomiさんに制作を依頼している。



3 小中一貫教育推進委員会について

(1) 砂川市が目指す小中一貫教育

砂川市教育委員会は、「砂川学園」開校の1年前となる令和7年度より小中一貫教育を本格導入することとしている。子どもの発達段階に応じたきめ細かい指導と、9年間を見通した切れ目のない支援を実現するために、次の5点を目指し取組を進めている。

- ① 主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」を育むための資質・能力を養う。
- ② 9年間を見通したカリキュラムの編成による学習指導の改善から、児童生徒の学力の向上に努める。
- ③ 小学校から中学校への接続を円滑にし、環境の変化により起こる、いわゆる「中1ギャップ」などの状況を解消する。
- ④ 様々な課題を抱える児童生徒に対し、9年間を見通した切れ目のない指導・支援を行う生徒指導体制を充実させる。
- ⑤ 将来を見据えて砂川市を支える人づくりと共生社会をつくるための素地づくりに取り組む。

(2) 指導区分の設定

学習指導要領の範囲内で、義務教育9年間を一貫したカリキュラムを軸として、地域の特色を活かした教育課程を編成するために、6・3制を維持しつつ、4・3・2制の3区分とし、それぞれの段階において重点化する指導内容を明確にし、系統性を意識しながら指導にあたることと

している。

- 1stステージ（1～4年生）【基礎・基本の確実な定着】
繰り返し指導や補充指導等により、習熟を図ることを重視し、学習規律や基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- 2ndステージ（5～7年生）【基礎・基本の徹底】
これまでの学習や生活で身に付けたことを活用することを重視し、論理的思考力や活用力の育成を図る。また、5年生から一部教科担任制の実施、後期課程に向けての交流事業等を行い、中学校の学習への円滑な移行を図り、中学校の学習に対する不安の軽減を図る。
- 3rdステージ（8・9年生）【個性・能力の伸長】
様々な場面での発展的学習等により、自分の生き方を考えさせたり、これまで身に付けたことを発展させたりすることを重視し、自ら課題を見つけ解決する力の育成を図る。

(3) ワーキンググループの取組について

「砂川学園」開校に向けて具体的な検討や事業の企画運営を行うために、「学校経営」「教育課程」「研究推進」「指導活動」「学校連携」の五つのワーキンググループ（WG）を設置し、取組の深化・充実を図っている。WGは、市内全小中学校の教職員によって構成されている。

(4) 砂川市小学校「学習スタンダード」について

「砂川学園」開校時の児童の戸惑いを軽減させることを目的として、令和5年度に市内5小学校共通の「学び方」（指導過程）を設定した（砂川市立小学校「学習スタンダード」）。令和6年度は、中学校での浸透を図る。



授業の基本的な流れ

(5) 学校間連携事業について

「砂川学園」は開校当初の全校児童生徒数が750名以上となる見込みである。一方、現在の市内5小学校の中には、児童数が10名以下の学級や複式学級を設置している小規模校も存在する。このため、開校に向けて、児童の人間関係づくりを円滑に進めることを目的として、学校間連携事業を実施している。これまでに、5校交流会（全小学校）、5校合同遠足（全小学校）、田植え体験（砂川小・豊沼小）、外国語交流授業（中央小・豊沼小・北光小）、科学・国際理解授業（空知太小・北光小）、中学校教員による乗り入れ授業（全小学校）を実施した。児童を対象に実施した事後アンケートでは、「他校の人と一緒に遊べて楽しかった」「他校の人たちと交流を深められて、心配や不安がなくなった」「また交流するのが楽しみ」といった肯定的な感想が多く、事業の目的を概ね達成することができたといえる。



5校交流会



5校合同遠足



田植え体験



中学校乗り入れ授業

4 おわりに

開校1年前となる令和7年度は、小中一貫教育を本格的に推進し、「砂川学園」の土台を完成させるための重要な1年間となる。砂川市内の児童生徒、保護者及び地域住民の「砂川学園」開校に対する期待はとても大きい。その期待に応えるために、砂川市内の小中学校に勤務するすべての教職員には、開校に向けての取組に主体性をもって関与することが求められている。